

都市再生整備計画(第4回変更)

六供・松並木地区

群馬県 前橋市

平成25年2月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	群馬県	市町村名	前橋市	地区名	六供・松並木地区	面積	481.3 ha
計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度				

<b>目標</b> 『地域と人の基盤整備を図り、地域コミュニティの活性化と健全で安全な新しいまちづくり』 小目標1 居住性・防災性を向上させる“快適・安全な住環境の整備” 小目標2 地域生活基盤整備による“交通導線の創出と交通混雑の緩和” 小目標3 大学を中心とした“地域コミュニティの活性化と新たなまちづくりの担い手育成”
--

<b>目標設定の根拠</b> まちづくりの経緯及び現況 <b>【現況】</b> 市街化区域と市街化調整区域にまたがって位置し、中心市街地への幹線道路としては「県道前橋・玉村線」や「主要地方道前橋・館林線」等の限られた路線しかなく、地区内は宅地と農地が混在した無秩序な宅地開発が進行している。周辺地域には北関東自動車道が整備され、国道17号(上武道路含む)や国道50号が通過している。また、自動車交通の要所になるため、交通量が增大し、極めて便利な住宅地として今後ますます過密化する傾向にある。今までは、主に土地区画整理事業へ取り組むことで健全で安全なまちづくりを進めてきた。しかし、依然として市道は総体的に幅員狭小のものが多く、公共施設が不足している。 <b>【まちづくりの経緯】</b> ・平成16年度より、都市再生整備計画(松並木地区)として松並木土地区画整理事業に取り組んでいる。事業区域の幹線都市計画道路沿いでは民間による開発が行われ始め、現在、ショッピングセンターや温泉施設、アミューズメントパーク等が建設されている。また、地区内には宅地と農地が混在していたが、土地区画整理事業の進展とともに複合市街地として調和のとれたまちづくりが進められている。 ・平成16年度より、都市再生整備計画(六供地区)として六供土地区画整理事業に取り組んでいる。中心市街地及びJR両毛線前橋駅の至近距離にありながら総体的に多かつた幅員狭小の市道は、事業の進捗に伴って改善が図られつつある。また、市街地の渋滞も解消されつつあり、良好な住環境と健全で安全なまちづくりが進められている。 ・高度な知識を習得した人材を養成するとともに、地域住民・地域経済に根ざした大学を目指している前橋工科大学は、一期計画において管理棟(提案事業)を整備している。現在、この管理棟を有効に活用して公開講座や産学連携フォーラム、各種研修会等を開催するなど、地域産業への貢献的な役割を担ったり、地域コミュニティの活性化を図ろうとしている。なお、前橋工科大学は、大学のある上佐鳥町及びその周辺町の地域防災計画の一次避難所に指定されている。 ・六供地区と松並木地区の2地区間を東西に連結する都市計画道路・江田天川大島線は、平成20年度より整備に着手しており、整備は三期に分けられて実施され、平成29年度の完成を目指している。
--

<b>課題</b> ・区域内は依然として宅地と農地が混在しているが、軌道交通の活性化を視野に入れながら基盤整備を進め、利便性の高いまちづくりを行う必要がある。また、街区公園等の公共施設を整備し、高質空間の形成を図ることで防災性の確保・居住環境の改善を図る。 ・一期計画で前橋工科大学の管理棟を整備し、施設規模と機能の拡充を図っている。この管理棟を含めた前橋工科大学全体が地域拠点となり、地域コミュニティの活性化、まちづくりの担い手育成並びに交流機能の充実等を図っていく必要がある。 ・既存の幹線道路は地区を南北に縦断するものばかりで東西に横断する幹線道路がないことから、都市計画道路・江田天川大島線の整備を進めることによって交通導線・地域間交流の創出、交通渋滞の解消並びに一体的な都市基盤整備を図っていく必要がある。
---

<b>将来ビジョン(中長期)</b> ・第六次前橋市総合計画において、JR両毛線前橋大島駅を地域拠点とし、駅周辺部は複合市街地ゾーン、区域の真ん中に田園ゾーンを挟み、両端部分が住宅ゾーンとして位置づけられている。ここでは、駅周辺部に住宅や商業・工業施設等が調和した高い利便性と周辺地域の発展にも寄与する環境整備を図り、農業振興と生活基盤の整備を進めることで安全・安心に生活できる快適な居住環境の形成を図ることとされている。そして、「生命都市いきいき前橋」を将来像に掲げ、「快適な都市空間の創出」、「都市内幹線道路の整備」、「高等教育機関の充実」並びに「市民と行政の協働によるまちづくりの推進」を進める地区でもある。 ・都市計画マスタープランでは、「県の顔として利便性が高くにぎやかなまち」、「高速交通網を活かして新たな市の活力を生み出すまち」並びに「交通利便性が活かされた自然や歴史と共生したまち」の3つの地域目標に関連し、恵まれた地域資源と交通利便性、多様な都市機能を備えながらも多くの人が住み、市内外から多くの人が訪れるまちの形成を目指している。
---

<b>目標を定量化する指標</b>							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度		
交通環境の改善度	%	快適・安全な道路が充実し、「交通環境が改善された」と感じる人の割合(住民アンケートによる)	幹線道路等の整備と、居住性の高い住環境整備を行うことで、より良い交通環境の実現並びに地域コミュニティの活性化を図る。	40	H20	50	H25
主要幹線道路の活用度	%	前橋・館林線を毎日利用する人の割合(利用者アンケートによる)	区画整理事業の進捗に伴うアクセス道路整備を行い、快適・安全な交通導線の確保と交通混雑を解消する。	37	H20	45	H25
消防活動困難度	%	4m未満の狭隘道路の残存率	災害防止に努め、緊急車両が通行可能な安心して暮らせるまちづくりのため、狭隘道路を解消する。	44	H20	40	H25
施設利用回数の増加	回	前橋工科大学管理棟の多目的ホールを使用した回数	地域コミュニティの活性化と新たなまちづくりの担い手育成の観点から、一期計画で整備した管理棟の多目的ホールを有効活用する。	20	H20	30	H25

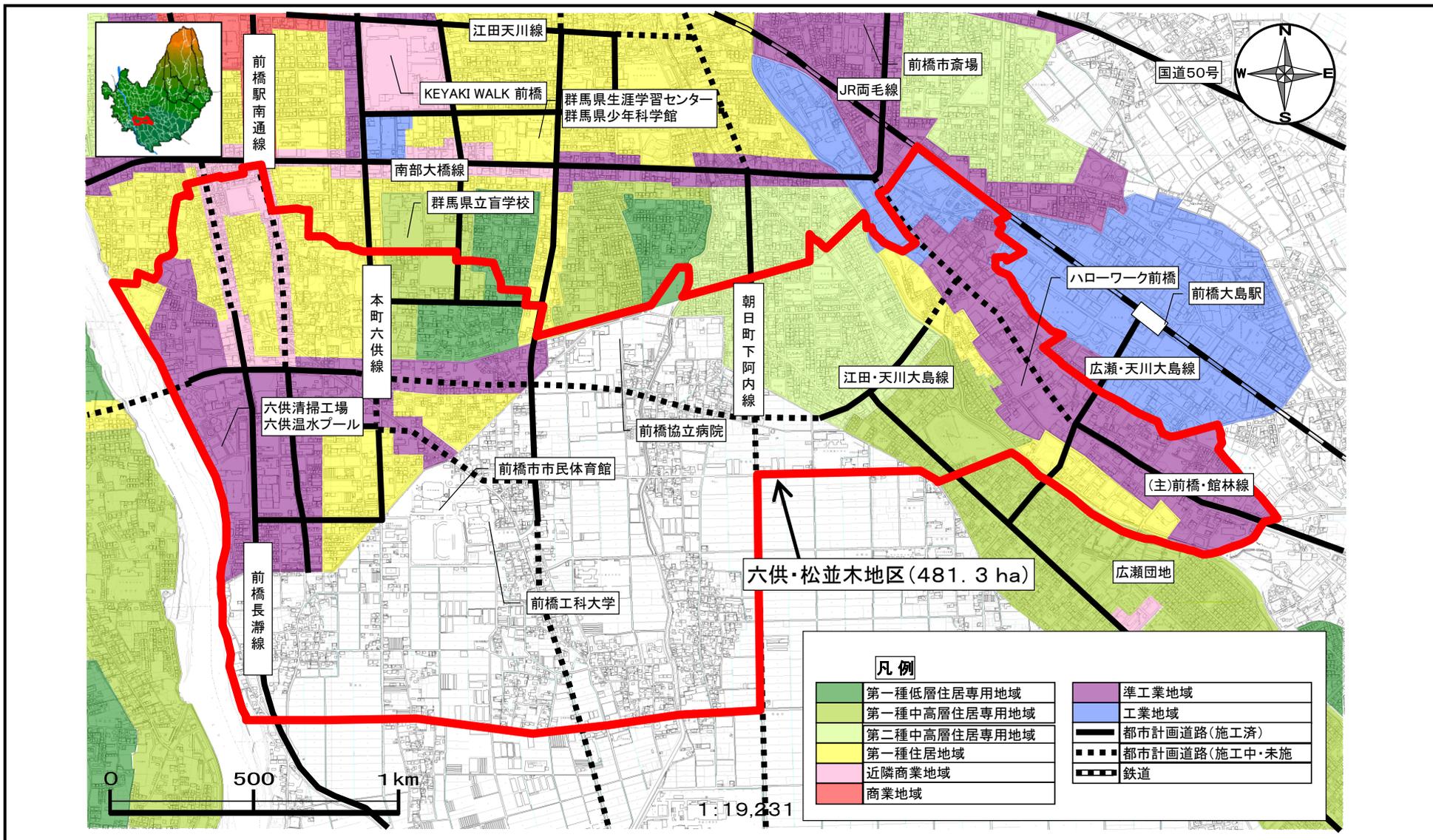
## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><b>・整備方針1(公共施設の整備、宅地利用の増進)</b> 地域の課題に従い、土地区画整理事業を推進することによって、宅地利用の増進、公共施設の整備を図る。さらに、地域性や防災性にも考慮し、魅力あるまちづくりを目指す。</p>	<p>・土地区画整理事業：六供土地区画整理事業 ・土地区画整理事業：松並木土地区画整理事業 ・道路：江田天川大島線(連結部) ・道路：市道6-171号線 ・道路：市道00-113号線</p>
<p><b>・整備方針2(快適な都市空間の創造)</b> 地区内の住民にとって憩いの場並びに災害時の避難場所となる空間を確保し、街区公園として整備することで、良質な住環境の整備及び向上と地域交流拠点の整備を図る。</p>	<p>・公園：六供1号公園、六供2号公園、六供3号公園、六供6号公園 ・高質空間形成施設：広瀬川河畔道路</p>
<p><b>・整備方針3(地域コミュニティの活性化)</b> 前橋工科大学を地域拠点としてまちづくりの担い手育成並びに研究・情報発信を行い、市民力・地域力の活性化を図るために地域住民が主体となって取り組む地域づくりの一助とする。</p>	<p>・地域創造支援事業：地域課題共同研究プロジェクト事業</p>
<p><b>その他</b></p> <p><b>○事業終了後の継続的なまちづくり活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が主体となって取り組む地域づくり活動が継続するよう、情報提供や連携・支援体制の強化・充実を図る。</li> <li>・地区内の公園については、完成後に住民によるまちづくりの一環として、地元愛護会へ維持管理運営を移譲することとなっている。</li> </ul> <p><b>○交付期間中の計画管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交付期間中において、目標達成に向けて確実な効果を上げるため、市民アンケート等のモニタリング調査を実施し、その結果を随時市民に公開していく予定である。</li> <li>・現在施行中である六供土地区画整理事業・松並木土地区画整理事業区域内においては、事業を円滑に進めるために一年ごとに事業進捗状況及び整備状況の報告として地元「ちらし」を配布している。</li> </ul>	



都市再生整備計画の区域

<p>六供・松並木地区(群馬県前橋市)</p>	<p>面積 481.3 ha</p>	<p>区域 前橋市六供町、六供四丁目、朝倉町二丁目・三丁目・四丁目の全部と南町二丁目、櫛島町、上佐島町、朝倉町、天川原町二丁目、天川町、天川大島町、下大島町の一部</p>
-------------------------	--------------------	---



## 六供・松並木地区(群馬県前橋市) 整備方針概要図

目標 『地域と人の基盤整備を図り、地域コミュニティの活性化と健全で安全な新しいまちづくり』 小目標1 居住性・防災性を向上させる“快適・安全な住環境の整備” 小目標2 地域生活基盤整備による“交通導線の創出と交通混雑の緩和” 小目標3 大学を中心とした“地域コミュニティの形成と新たなまちづくりの担い手育成”	代表的な指標	交通環境の改善率 ( % )	40	(H20年度) →	50	(H25年度)
		主要幹線道路の活用度 ( % )	37	(H20年度) →	45	(H25年度)
		消防活動困難度 ( % )	44	(H20年度) →	40	(H25年度)
		施設利用回数の増加 ( 回 )	20	(H20年度) →	30	(H25年度)
			( )	( 年度) →	( 年度)	

